

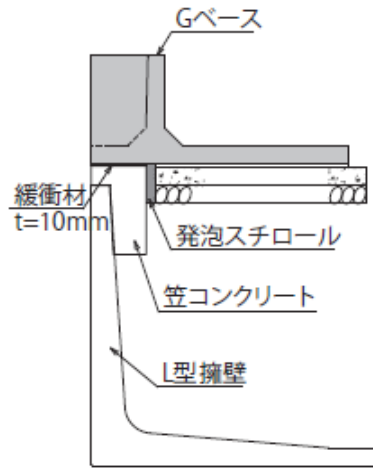
技術概要書（様式）

※別紙2

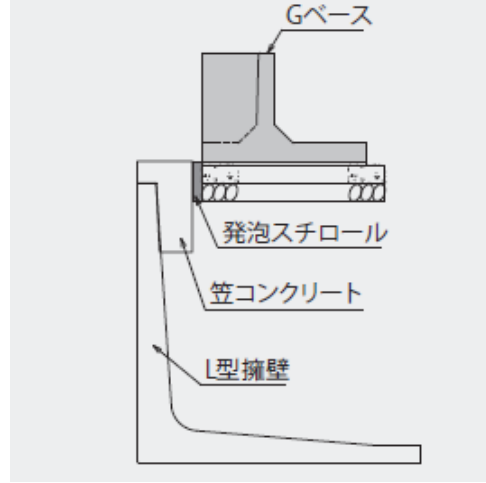
技術分類	安全・防災	維持管理	環境	コスト	ICT	品質	(該当分類に○を付記)																		
技術名称	プレキャスト防護柵用基礎ブロック「Gベース」			担当部署	広域営業部																				
NETIS登録番号	HR-050011-VE			担当者	安武 繁彦（株式会社ヤマックス）																				
社名等	Gネット工業会 九州支部			電話番号	096-381-1421																				
技術の概要	<p>1. 技術開発の背景及び契機</p> <p>工期短縮や施工安全性向上の観点から、擁壁等の上部に設置する防護柵基礎のプレキャスト化が求められ、補強土壁工法や軽量盛土工法にて最も設置される頻度の高い、たわみ性防護柵のガードレールを設置する基礎ブロックのプレキャスト化を行った。</p> <p>また、擁壁構造物の上部に設置する際、「Gベース」に作用する衝突荷重等を下部構造である擁壁に作用させることのない技術が求められ、万一の事故等による損傷が下部構造に及ばないものを開発目標とした。</p> <p>これらにより、工期短縮、施工安全性の向上だけでなく、維持管理の向上も図られる。</p> <p>2. 技術の内容</p> <p>「Gベース」は、車両用防護柵基礎ブロックの要求性能を満たすため、日本道路協会の「車両用防護柵標準仕様・同解説」、「防護柵の設置基準・同解説」の両基準を満足するように設計されている。</p> <p>①車両用防護柵の種別がC種からSA種まで、歩行者自転車用柵の種別がP種の対応が可能。 ②基礎ブロックの総高さが500から800まで対応が可能。 ③「擁壁工指針P213」にある、下部構造に影響を及ぼさない設計 ④「車両用防護柵標準仕様・同解説P133」にある、基礎を10mを最大の長さとして設計 ⑤基礎1スパンを構成するブロック(製品長2m)は、トルク導入管理によるボルト連結仕様 ⑥ブロック背面は突起がないシンプルな形状で、小口も曲線部(R=15mまで)を考慮した形状</p> <p>3. 技術の効果</p> <p>①、②について、適用範囲が幅広く、設計の際は、簡易に設置計画が可能である。③について、事故後の対応では、2日で復旧完了し、道路供用への影響が最小限に抑えられた実績がある。④について、静的実験での結果で、荷重による変位の影響は10m程度になることが確認でき、設計が妥当であることが分かっている。⑤について、施工現場で場所打ちコンクリート等が必要ないため、工期短縮が図られ、また施工品質管理も行なっている。②、⑥について、最小限のブロック高さで、道路側溝をブロック背面に設置が可能となる。</p> <p>4. 技術の適用範囲</p> <p>擁壁(L型擁壁、補強土壁、軽量盛土、大型積ブロック)等の上部の安全施設</p> <p>5. 活用実績</p> <table border="0"> <tr> <td>国の機関</td> <td>298 件</td> <td>(九州</td> <td>16件</td> <td>、九州以外</td> <td>282件)</td> </tr> <tr> <td>自治体</td> <td>1428 件</td> <td>(九州</td> <td>103件</td> <td>、九州以外</td> <td>1325件)</td> </tr> <tr> <td>民間</td> <td>92 件</td> <td>(九州</td> <td>4件</td> <td>、九州以外</td> <td>88件)</td> </tr> </table>							国の機関	298 件	(九州	16件	、九州以外	282件)	自治体	1428 件	(九州	103件	、九州以外	1325件)	民間	92 件	(九州	4件	、九州以外	88件)
国の機関	298 件	(九州	16件	、九州以外	282件)																				
自治体	1428 件	(九州	103件	、九州以外	1325件)																				
民間	92 件	(九州	4件	、九州以外	88件)																				

6. 写真・図・表

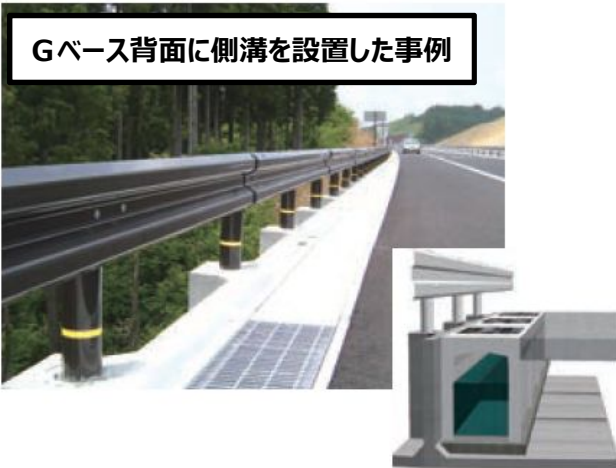
擁壁直上に設置する場合



擁壁直上に設置しない場合



Gベース背面に側溝を設置した事例



事故後に2日で復旧した事例



補強土壁直上に設置した事例



縦断勾配に設置した事例

